

本日正三位・敘セラル

從三位勳四等子爵大關増勤敘勳

ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十八年八月八日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

三十

内

閣



從三位勲四等子爵大關増勤叙勲

、件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十八年八月八日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

三十

内

閣

賞勳局直第一二七號

八月八日裁可

明治三十八年八月八日

内閣總理大臣  賞勳局總裁



從三位勳四等子爵大關増勤病氣危篤
叙勲ノ件ヲ案スルハ明治戊辰ノ役官軍ニ
應援盡力シ繼テ各所ニ出兵シ毎戦克ク其
功ヲ奏シ其戦功ニ依テ賞典祿毫萬五千石ヲ
賜ハリタルモノナリ
進メラレタル例蹤多ク有之候者本人儀モ此際
特別ノ譯ヲ以テ一級ヲ進メラレ勲三等瑞寶
章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

内閣

從三位勲四等子爵大關増勤ハ舊黒
羽藩主ニシテ明治戊辰ノ歲舊幕府ノ
歩兵脱走野州宇都宮城ヲ龍衣較手ノ
時、方リ官軍ニ應援盡力ニ継テ各所
ニ出兵毎戰奏功克ク藩屏ノ任ヲ盡セ
リ今ヤ病氣危篤ノ趣、台相當ノ勲等
ニ進敘ノ義詮議相成度此般及申
陳候也

明治三十八年八月八日

内閣

内閣書記官長柴田家門

賞勲局總裁子爵大給恒啟

勲西等

從三位 子爵 大関 増勤

泰次郎

嘉永五年 正月五日 生

慶應三年 月 日 為大関増裕養子

明治元年 三月 龍封下野國黒羽藩壹萬八千石

四月九日 為宇都宮城應援出兵一隊大砲二門

五月廿五日 出四隊一隊砲隊於白川口

十月三日 凱旋黒羽

明治元年 十月廿三日 上東京参内拜謁賜天不

明治元年 十月廿一日 叙從五位下

任美作守

明治二年 三月 日上表奉還版籍

宮内省

六月二日 高臺萬五千石依戰功永世下賜候事

小藩ヲ以テ賊域ニ在リ断然方向ヲ決シ各所奮勵

每戰奏功藩屏之任ヲ家候殿眷感不淺仍為

其賞壹萬五千石下賜候事

六月廿二日 黒羽藩知事被仰付

明治四年 二月廿日 東京府貴族被仰付

七月十四日 免黒羽藩知事

八月十五日 移任東京

明治五年 二月六日 米國留學トシテ出發

米國マセッチーセツト州エストハニアトイルストン

學校ハ入學ス

明治六年 五月一日 依病歸朝

明治七年 七月九日 補大講義

十月廿四日 為日枝神社祖官
明治八年 三月六日 依願免大講義

明治七年 七月八日 授子爵

明治六年 七月十三日 敘勳四等賜旭日小綬章

明治五年 十二月廿日 敘正五位

明治四年 七月五日 敘從四位

明治三年 七月二日 敘正四位

明治二年 六月三日 敘從三位

宮内省

明治廿八年八月八日

明治廿八年八月八日

内閣書記官長



内閣書記官



賞勳局總裁へ申牒案

従三位勲四等子爵大関増勘ハ熊黒羽
藩主ニシテ明治戊辰ノ歲舊幕府ノ歩
兵脱走野州宇都宮城ヲ襲撃シ時ニ方
リ官軍ニ應援盡力ニ継テ各所ニ出兵毎
戰奏功克ク藩屏ノ任ヲ盡セリ今又病
氣危篤ノ趣ニ付相當ノ勲等ニ敘スル
義詔議相成度此段及申牒候也

八月八日

内閣書記官長